

三間町にある市指定文化財「旧毛利家庄屋住宅」 特徴の1つである茅葺き屋根の葺き替えが、 約20年ぶりに行われました。 今となっては珍しい風景ですが、 昔は当たり前に行われていた暮らしの一部です。 今月は、「暮らし」を守るをテーマに、 毛利家を守る人たちの活動を取材しました。

当時の暮らしが残る場所

そこでは今も、昔ながらの営みが見られる260年にわたって残る旧庄屋毛利家











うな雰囲気を味わうことができられ、今でも当時の姿をそのまられ、今でも当時の姿をそのまま残し続けています。建物の中は、明治時代のオルガンや囲には、明治時代のオルガンや囲には、明治時代のオルガンや囲には、明治時代のオルガンや囲には、明治時代のオルガンや囲には、明治時代のオルガンや囲には、明治時代のオルガンや田には、明治時代のオルガンやは、 で表にはないます。 とこだけタイムスリップしたような雰囲気を味わうことができ

景を一目見ようと多くの人が訪の修繕作業では、昔ながらの風の修繕作業では、昔ながらの風の修繕作業では、昔ながらの風でいます。 (以下、守る会)が行っています。



旧庄屋毛利家(三間町是能)

■旧庄屋毛利家屋敷って?

平成6年に旧三間町で有形文化財に 指定された江戸時代から残る庄屋の屋 敷です。屋敷の形態や屋根などには当 時の豪農屋敷の特徴が残り、農業で繁 栄していたことを示しています。

守る会が中心となり、修繕などの保 存活動やイベントなどを開催していま す。また、史料などの保存活動も行わ れています。

※3月の市政広報番組で も紹介しています。



囲炉裏など当時の家財が残る



11月のつるし柿は写真映えする風景



3月にひな飾りなど四季折々の催しを開催







①大規模な葺き替え作業②作業前の 状態③古くなった茅を新しいものに 交換4守る会のメンバーが連日作業 を手伝う⑤計13 t の茅を使用⑥昇 降機で茅を屋根まで運ぶ⑦茅を葺き 竹組に紐で固定。この作業を12回 繰り返す⑧断面を整える⑨約20年 ぶりにきれいになった屋根











地元が頑張らんといけん 松笠さん(副会長)

約2週間続いた屋根の葺き替え作業には、 守る会の皆さんがボランティアで協力してく れました。連日10人以上が参加し、資材運び や古茅の処分などの雑用を担ってくれ、おか げで無事に屋根をきれいにすることができま した。会の皆はお願いしたら「地元やけん」 といつでも協力してくれるのですごくありが たいです。これからも地元がメインとなって 頑張って守っていきたいです。



作業で出た古茅の掃除などの雑用を、会のメンバー がボランティアで買って出てくれた

その声に100人以上が集まった。皆が和める場所として残そうや。 この貴重な建物を、 ―旧庄屋毛利家を守る会のコトー

■三間の文化財「旧庄屋毛利家」 を守る会

地元有志で平成7年に結成。価値 ある建物を残したいとの想いから、 募金などを行い保存活動に取り組ん でいます。「旧庄屋毛利家」の保存 と農村文化の継承を目的に、さまざ まなイベントも開催しています。

この場所を守るかい



■活動の歴史

平成7年に三間町内外約100 人の参加により、活動が始まり ました。

屋敷を保存することで、農村 文化の継承と、和みの場として 町おこしにつなげ、三間の良さ を次世代に引き継ぐことを目的 に活動しています。

一度消えてしまえば新しく建 てることはできない貴重な建 物。地元の是能自治会では、今 では約80%以上が会員になって います。

平成10年の屋根葺き替えで は、保存のための茅を会員が3 年かけて集めました。大野ヶ原 や松野町に出向き草刈りから運 搬までを行い、その結果3年間 で約1万2千束を確保しました。 また、寄附のお願いにも奔走し 多くの寄附金が集まりました。

そのほかにも、結婚式や写真展。 音楽イベントなど催しが行われ るときは中心になって活動して います。



3月上旬まで古写真展を開催中



いつまでも残して

片桐さん

平成10年の葺き替えのときは、 全国の皆さんからの寄附があり屋 根の葺き替え工事をすることがで きました。それだけ皆さんからの 想いも感じています。今回の作業 で一区切りついた感じはあります が、これで完成ではなくこれから がスタートです。新しい時代に引 き継いでいきたいです。



完成間近には疲労困ぱいに。それで も完成目指して一踏ん張り



誇れる文化財として 毛利さん (毛利家当主)

毛利家のすぐそばに住んでいる ので毎朝晩屋敷の窓を開けて風を 通したり、落ち葉を掃除したりし ています。毛利家は、四季折々の 景色が楽しめて飽きることがない ところです。宇和島の文化財やけ ん、人が来たときに見苦しくない ように、これからもきれいにし続 けたいです。



誰か来たときに空気が悪いといけな いと毎日換気を行う

かけがえのない「日常」の価値

いつしか心の拠りどころに一。 毛利家を守る活動を通して、 日常の価値に気付いた。

ここに来るとココロが和む

「守る会のメンバーは平均年齢70におる会のメンバーは平均年齢70におっていることきはいつの間にか向かっていることきはいつの間にか向かっていることきはいつの間にかうトコロになって毛利家の存在は、人と人とが関わて毛利家の存在は、人と人とが関わて毛利家の存在は、人と人とが関わてにココロまじわうトコロになっているのかもしれません。



守る会 会長 安岡さん。囲炉裏が絵になる。

当時の養はしが確認できるにと取り組んでいる守る会の活動にと取り組んでいる守る会の活動にと取り組んでいる守る会の活動にと取り組んでいるす。それを守りたいのある建物です。それを守りたいのある建物です。古文書だけでならっています。古文書だけでなら、納屋には当時の農機具や古写く、納屋には当時の農機具や古写く、納屋には当時の農機具や古写もらっています。最近では、その価値をあります。最近では、その価値をあります。最近では、その価値をあります。最近では、その活動にと取り組みも広がっているので大変すれしいです。



写真の展示会などを開催し、

今後は毛利家でも、農機具や古

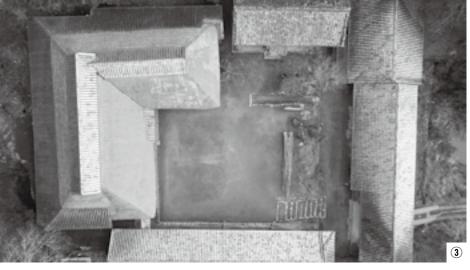
納屋から見つかった農機具を展示。 その時代の暮らしが垣間見える。

思います。 史に触れる機会を設けていきたいとある建物を活用して皆さんがその歴 文化財を残して活かす



毛利家史料調査会 宮本 春樹 さん

本市出身。教員を退職後、県内 文化史料などの保存活動に従事。 毛利家にも多くの古文書が残さ れており、修復・保存活動に取 り組んでいます。



①安岡さんも連日作業に参加②最後の片付けまで守る会の皆で協力して取り 組む③完成した茅葺き屋根





残したい宇和島の日常

だけではなく当時の暮らしも失って しまうことになります。 古いからと壊してしまっては、 ていた日常の風景だったはずです。 もなんともない、当たり前に行われ れました。この作業も、昔は珍しく 根葺替え作業に多くの人が見学に訪 2月上旬まで行われた毛利家の屋 建物

時の人たちの暮らしも、 でしょうか。あなたが残したい宇和 えてみることで、新しい魅力を発見 しれません。今あるものの見方を変 前にある風景も将来は失われるかも に気付くことができます。 してきたことで、今の人もその魅力 あった日常です。それを守る会が残 ています。毛利家で営まれてきた当 島にある日常の豊かさを見つめ直し とまちの魅力に気付けるよう、宇和 し、その価値に気付けるのではない の魅力を見つけるため、 本市は今年度から、住む人がもっ 宇和島に 今当たり

からも残していきたい」と安岡さん皆の憩いの場所になるように、これ 場所が、昔の人も今の人も含めて、 に活動に参加してくれている。この の年寄りばかりだけど、 皆積極的

守る会もまた、全国に誇れる宝

単そうではありますが慎重さが必 携われて光栄です。茅葺き屋根の 茅を被せてひもで固定を繰り返し あります。作業は屋根の竹組みに 修繕作業は今となっては需要も少 を茅の中に通していくことは、 今回、この貴重な建物の作業に 不必要な穴を開けずにひも 全国から修繕の依頼が多く 簡



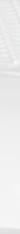
しかし今回の作業では、

この建物を守りたいとい

要です。

川上さんがすると簡単そうな作業 まねできない職人の技

るところはありません。 う強い気持ちを感じました。 全国に誇れる価値を感じました。 このように作業に協力してくれ 守る会の皆さんの取り組みもま 建物と同じ





葺き替え職人 川上さん

高知県檮原町の葺き替え作業の 職人さん。今では職人も少なく なり、川上さんは茅葺き屋根の 作業で全国を飛び回る。